

資料配布の場所・日時

1. 筑波研究学園都市記者会(資料配布)
2. 国土交通記者会(資料配布)
3. 国土交通省建設専門紙記者会(資料配布)

日時：平成30年8月10日(14:00)



国立研究開発法人土木研究所『共同研究者の募集』について (大型ブロック積擁壁の設計・施工・維持管理の高度化に関する共同研究)

国立研究開発法人土木研究所では、平成30年度新規に実施する以下の共同研究について、共同研究者を募集しますのでお知らせします。なお、研究内容等の詳細につきましては、担当チームにお問い合わせください。

1. 土木研究所が提案する共同研究 (土研提案型：指定機関・公募共同研究)

<p>大型ブロック積擁壁の設計・施工・維持管理の高度化に関する共同研究</p> <p>(詳細は別添-1)</p>	<p>平成30年10月(予定)</p> <p>～平成33年3月</p>
<p>担当：地質・地盤研究グループ</p>	
<p><u>共同研究の目的(必要性)</u></p> <p>生産性向上のために、プレキャスト(以下「PCa」という。)製品の適用が推進されている。道路土工の分野においては様々なPCa製品が開発されているが、特にPCa擁壁製品は多様である。一方で、PCa部材活用を想定した技術基準類は十分整備されているとは言えず、PCa部材活用時の品質管理、検査の手法の開発が求められる。加えて、PCa部材は単純なコスト比較では現場打ちと比べて必ずしもメリットがでるものではなく、施工性及び維持管理性を強調していく必要がある。さらに、道路土工構造物に用いられるPCa構造物の変状は他の道路土工構造物と同様に土圧、沈下等により発生するものが多く、コンクリート工学的観点のみならず地盤工学的観点において技術開発を行う必要がある。</p> <p>本共同研究では、道路土工構造物に用いるPCa構造物の中でも特に多様な種類のある大型ブロック積擁壁を対象に、道路擁壁としての性能を確保したうえで現場条件に応じて施工性及び維持管理性に優れた製品が活用されるよう、大型ブロック積擁壁の合理的な性能評価手法を確立することを目的に、変状事例の調査・分析、ブロック間の一体性等に関する評価技術の検討及び大型ブロック積擁壁等の機能向上に関する検討を行うものである。</p> <p><u>共同研究の内容</u></p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 大型ブロック積擁壁の構造評価技術の検討 (2) 大型ブロック積擁壁等の機能向上に関する検討 	

2. 募集期間 **平成30年8月10日(金)から平成30年9月10日(月)17:00まで**3. その他 土木研究所の共同研究制度の概要や申請書等の様式につきましては、土木研究所ホームページ(<http://www.pwri.go.jp/>)に掲載しております。

問 い 合 わ せ 先	
<p>全般的なことについて</p>	<p>国立研究開発法人土木研究所 企画部 研究企画課</p> <p>課長 猪股 広典</p> <p>主査 谷藤 公彦</p> <p>電話 029-879-6751</p>
<p>研究内容について</p>	<p>国立研究開発法人土木研究所 地質・地盤研究グループ</p> <p>上席研究員 宮武 裕昭</p> <p>主任研究員 澤松 俊寿</p> <p>電話 029-879-6759</p>

別添-1

1. 共同研究の名称

大型ブロック積擁壁の設計・施工・維持管理の高度化に関する共同研究

2. 共同研究の概要

< 共同研究の目的 >

生産性向上のために、プレキャスト（以下「PCa」という。）製品の適用が推進されている。

道路土工の分野においては様々なPCa製品が開発されているが、特にPCa擁壁製品は多様である。一方で、PCa部材活用を想定した技術基準類は十分整備されているとは言えず、PCa部材活用時の品質管理、検査の手法の開発が求められる。加えて、PCa部材は単純なコスト比較では現場打ちと比べて必ずしもメリットが得るものではなく、施工性及び維持管理性を強調していく必要がある。さらに、道路土工構造物に用いられるPCa構造物の変状は他の道路土工構造物と同様に土圧、沈下等により発生するものが多く、コンクリート工学的観点のみならず地盤工学的観点において技術開発を行う必要がある。

本共同研究では、道路土工構造物に用いるPCa構造物の中でも特に多様な種類のある大型ブロック積擁壁を対象に、道路擁壁としての性能を確保したうえで現場条件に応じて施工性及び維持管理性に優れた製品が活用されるよう、大型ブロック積擁壁の合理的な性能評価手法を確立することを目的に、変状事例の調査・分析、ブロック間の一体性等に関する評価技術の検討及び大型ブロック積擁壁等の機能向上に関する検討を行うものである。

< 共同研究の内容（項目） >

- (1) 大型ブロック積擁壁の構造評価技術の検討
- (2) 大型ブロック積擁壁等の機能向上に関する検討

3. 実施期間 平成30年10月（予定） ～ 平成33年3月

4. 共同研究の内容及び研究分担

研究の分担

研究項目	研究細目	研究分担 ※1			年次計画		
		土研	指定機関 ※2	公募参加者	30年度	31年度	32年度
(1) 大型ブロック積擁壁の構造評価技術の検討	大型ブロック積擁壁等の変状事例の調査・分析	○	◎	◎	→	→	
	ブロック間の一体性等に関する評価技術検討	◎	◎	○	→	→	
(2) 大型ブロック積擁壁等の機能向上に関する検討	施工性・維持管理性に資する付加技術のニーズ・シーズ調査・分析	◎	◎	◎		→	→
	合理的な性能評価手法検討	◎	○	○		→	→

※1 該当する項目及び細目は○印とし、分担しない場合は「-」とする。ただし、研究分担に主従がある場合は、主として分担する場合は◎印とし、従として分担する場合は○印とする。

※2 指定機関とは、国立研究開発法人土木研究所共同研究規程に基づく手続きにより、本共同研究の相手方として承認され、本共同研究の実施について承諾を受けた公益社団法人全国土木コンクリートブロック協会である。

<裏面もご覧下さい>

5. 共同研究に参画する条件及び募集する参加者数等

< 参画条件 >

以下①②の条件の双方を満たし、本共同研究の遂行のために適切な人員配置が可能であり、かつ必要となる費用を分担できること。

- ① 本共同研究の内容に関連した調査研究を行っており、その成果を地盤工学に関する論文等として学術協会に投稿した実績があること。
- ② ①の条件を有する技術者が所属し、本共同研究に配置できること。

< 参加者数 >

公募による共同研究相手機関は3者程度を予定している。

< 参加者の選定方法 >

書類審査及び必要に応じて個別にヒアリングを行い、選定する。

6. 担当者

地質・地盤研究グループ

宮武・澤松 (TEL : 029 - 879-6759)